

◆先輩からのアドバイス◆

“当たり前”を疑う -レポート（論文）執筆の第一歩-

「レポート、何書いたらいいですか?」「卒論は何をやればいいですか?」

D3(博士課程3年)という院生としていく所まで行ってしまった私は、度々このような質問や相談を受ける事があります。専攻の先生や先輩もしくは図書館の学修相談窓口等で相談するのも一つの手ですが、テーマに悩んだ時に一番大事なことは“当たり前”を疑うことです。これは日常の思考方法にも通じています。例えば、「理想の夫婦として表彰された芸能人夫婦は、本当に理想なのだろうか?」「これって誰が決めているのだろうか?」「そもそも、理想の“母”、理想の“父”って何だろう?」など、日々大量に流れてくる情報を鵜呑みにするのではなく、一度疑ってみましょう。

あなたやあなたのコミュニティが“当たり前”と思い込んでいる事は、だいたい他人(他者)にとっては当たり前ではありません。自分の“当たり前”を疑う事から始めて、別の可能性やその根拠(論拠)を探してみましょう。日頃からこれを繰り返すことで、自分で課題を設定し、根拠をもって結論を導き出すという大学での学びの基本が分かると思います。

まずは講義中に先生が話している内容やテキストの内容を疑う事から始めてみましょう。

(人文社会科学研究科 院生)